

訪問リハビリテーション通信

第66号

出版責任者

“絆”きずな

訪問リハビリテーション
振興委員会

訪問リハビリステーション 事業報告

私ども、訪問リハビリテーション振興財団が、東日本大震災後に訪問リハビリステーションとして、浜通り訪問リハビリステーションを開設して、早7年が経過しようとしています。

今号と次号の2回にわたり、開設した「訪問リハビリステーション」の上半期実績と新たな取り組みについて、ご報告させていただきます。

【宮古・山田訪問リハビリステーションゆずる】

平成31年4月～令和元年9月まで 新規ご利用者人数：25名 延ご利用者人数：742名

新たな取り組み：

1. 地域連携・啓発活動

平成27年より、地域におけるリハビリテーションの啓発、顔の見える連携・地域づくりを目的に、「地域リハビリテーション研修会」を開催しています。介護支援専門員やヘルパーなどを対象に、年2～3回の頻度で継続開催しており、現在まで、全13回実施しています。

啓発活動として、開設以来「ゆずる通信」を毎月発行しています。今年度は「障がいがあっても社会にできることを」をテーマとして、車椅子で宮古駅から陸中山田駅までを実際に乗車し（三陸鉄道全線開通に合わせ）、車椅子昇降機や乗車時のスロープなどを紹介しました。

2. 介護予防事業へのかかわり

宮古市では、平成26年度から介護予防事業の立ち上げ支援、健康教室へ講師依頼を受けています。平成29年度からは、宮古市地域包括支援センターでの地域ケア会議に、1～2名（1回/月程度）参加しています。

山田町では、平成27年度から訪問型介護予防事業の委託、地域介護予防活動支援事業の講師派遣を行っています。平成29年度からは総合事業に移行し、訪問型サービスCの委託、地域リハビリテーション活動支援事業を継続委託されています。

3. 講師依頼

平成29年から、介護施設や山田町社会福祉協議会などから、主に腰痛予防や移乗介護技術について講師依頼をいただいています。また、令和元年9月に、宮古市の中学校のキャリア学習の講師として言語聴覚士が依頼を受け、講義を行っています。

【浜通り訪問リハビリステーション】

平成31年4月～令和元年9月まで 新規ご利用者人数：48名 延ご利用者人数：636人

新たな取り組み

南相馬市小高区は平成28年7月12日に避難指示解除になりましたが、同地区居住者の高齢化率49.2%（市全体では32.5%）と高い状況です。そこで今年4月から小高区の現状や問題点の共有を行うこと、対策を考えることを目的に、多職種集いの会を立ち上げました。

多くの職種（医師、看護師、介護支援専門員、介護士、薬剤師、行政、消防士、警察官など）が参加してくれており、活発な意見交換ができています。

小高区で高齢者が安心して生活できるように、地域のニーズに対して“何が出来るのか”みんなで考えていけたらと思います。

両施設共、毎月新規のご利用者が10名前後と、依然として、被災地にはニードが存在しています。そして、単に訪問リハビリテーションを提供するのみでなく、地域の中で“顔の見える関係”を築き、その地域の方々と共に様々なニードを共有し、地域の復興・発展に寄与していきたいと考えています。次号では、気仙沼訪問リハビリステーションを掲載します。

リハビリテーション専門職団体協議会・訪問リハビリテーション振興委員会

事務局 東京都港区芝浦3-5-39 田町イーストウィング6F